

1 はじめに

2011年6月23日から7月5日まで、タイ総選挙のためにANFRELが主催した選挙監視活動に参加しました。7月3日に行われる総選挙のため、長期監視員として24チーム、短期監視員として20チームが組織されました。これまでのタイの複雑な政治闘争について述べることは割愛しますが、外国人の死者を出した2008年4月の空港占拠事件は国際社会にも衝撃を与え、2010年3月から続いたデモ隊の衝突は、5月19日の掃討作戦によって終結しましたが、多数の外国人や政治的指導者を含む死傷者を出すという最悪の結末となりました。タイの観光業界にも大打撃を与えた一連の暴動以来の今回の総選挙には、国内外の注目が集まり、唯一の国際選挙監視団であるアンフレル（Asian Network For Free Elections: ANFREL）に対するタイメディアの注目も非常に高いものとなりました。

2 選挙システム

- タイは77県で構成されています。下院議員の総数は500人で、うち375人は小選挙区制で選ばれ、残る125人は比例代表制で選ばれます。
- 投票時間は午前8時から午後3時までです。
- 投票権は、18歳以上です。

3 タイ東北部での監視活動

タイ東北部にあるウボンラッチャタニ県（Ubonratchathani）選挙区6から選挙区9と、アムナッチャローン県（Amnat Charoen）を担当しました。タイ東北部の地方都市であるウボンラッチャタニは、タクシン支持派が強い勢力を持っている有名な地域です。

3.1 選挙教育

両県において聞かれたのは、前回の選挙時と比べて選挙管理委員会による広報活動・教育活動が少ない、ということでした。アムナッチャローン県は、2選挙区しかないこともあり、県内の大学に出張して投票が初めての学生に対して授業を行ったり、各政党から代表者を招いて学生が政策について比較検討できる場を設けたりと比較的盛んに選挙教育を行っていました。しかし11選挙区を抱えるウボンラッチャタニ県では、選挙管理委員会のスタッフは日々の作業に忙殺され、教育・広報活動まではとても手がまわらない状況でした。

3.2 選挙活動

各政党の選挙活動に関しては、選挙キャンペーン期間中、特に大きな事件や不正は報告されませんでした。至る所で見られたのは、選挙ポスターの破壊行為です。ただし、ポスターの破壊行為は今回の選挙に限ったものではなく、子ども

が遊んで壊している、と言う住民もいました。

3.3 選挙買収

タイ選挙で毎回大きな問題になっている買収ですが、住民に尋ねると、多くが「まだ」と答えていました。最近では、各家を訪ねてまわるような買収はあまりなく、選挙演説にやってくる住民たちのドライバーに 500 バーツを払ったり、集会で一人一人に配ったりというやり方が多いようです。

聞き取り調査から分かったことは、住民たちの多くは買収を違法だと認識していて、お金を受け取ったとしても、お金を渡した政党や候補者に投票するつもりはない、と考えているということです。多くの住民がこのように考えていると、買収行為が意味をなさなくなるため、大規模な買収行為がなくなる日も近いのではないかと感じました。

3.4 バンコクにおける暴動に対する反応

3月から多くの死傷者を出した一連の暴動に対しては、多くの住民がかかわりのないことと捉えていました。暴動は遠く離れたバンコクの非常事態であり、両県では、支持政党をめぐる暴力事件などはないということでした。

タイ東北部はタクシン支持派の多い地域であり、バンコクの暴動にも多くの人々が加わったという噂もありますが、タクシン支持派は組織活動が強くないため、誰がどのように加わったのかほとんど把握できていません。一方で、民主党は数は少ないものの、地方組織がしっかりしているので、情報共有や選挙活動の応援などを効果的に行っていました。

3.5 女性政治家インラック氏に対して

女性であるインラック氏に対する批判的な声は、ほとんど聞かれませんでした。政治的混乱が続く中、政治的な経験を持たず、女性であるインラック氏の登場は、これまでの混乱に嫌気がさしている住民に好意的に受け入れられているようでした。一度女性に首相をやらせてみよう、という声が多数聞かれました。

3.6 期日前投票

6月26日に行われた期日前投票は、居住者のための投票所と非居住者のための投票所と二種類ありました。投票者が前回期日前投票の登録をした場合、今回改めて取り消しの手続きを行わない限り、投票者は自動的に期日前投票に登録されます。

書類の到着が遅れたために、登録・取り消しができなかった投票者がいたほか、非居住者の投票率が非常に低いという結果が出ました。おそらく、取り消し手続きが必要なことや手続きの方法を知らない投票者が多数いたためだと考えられます。

3.7 投票日

7月3日の投票日は、暴力事件や問題が報告された例はなく、開票作業も含め

て選挙は無事終わりました。投票率は約 70%で、近年の平均的な状況でした。

選挙に関する備品は、各県の選挙管理委員会が準備をしますが、財政状況によって投票所の様子に差がありました。アムナッチャローン県に比べて、ウボンラッチャタニ県は前回使われた古い投票箱を使用している投票所が多く見られました。今回から使用されている新しい投票箱も、段ボールで作られた非常に簡易なもので、雨天時の破損なども懸念されるような作りで、国際基準には及ばないものでした。

全体の約 10%から 15%が、正しくマークをしていないことによる無効票でしたが、この数字は途上国の選挙としては決して多いとは言えないという結論に達しました。今回注目された無効投票キャンペーン (“Vote NO” campaign) は、支持を集めることはありませんでした。住民の多くが、無効投票キャンペーンはタイ国民として選挙権を無駄にすること、と考えていました。

4 おわりに

懸念されていた大きな暴動もなく、選挙は無事終了しました。結果はタイ貢献党の勝利に終わり、8月5日、インラック・シナワット氏が新首相に選出されました。現在まで、国政に大きな混乱はありません。タクシン氏の処遇をめぐっては、党内でも意見が分かれています。タイに帰国し、刑期を全うすべきだとする声もあります。今後のタクシン氏の行動によっては、再び混乱を招く可能性があります。



投票所の様子



市庁で選挙に必要な備品をスタッフ全員で確認し、サインをして投票所へ運ぶ



投票日まで、備品は村長の自宅や集会所など、安全だと考えられる場所に保管される



開票作業の様子
一票ずつ確認し、読み上げ、ボードに印をつける



期日前投票の投票用紙は
郵便局職員が運ぶ



左側の投票箱が新しい段ボール製のもの
右側の投票箱は前回使われたもの



Vote NO キャンペーン



破壊された選挙ポスター

アピシッド大統領の顔と民主党「10」番の「0」が
破壊され、タイ貢献党の番号「1」になっている



ボーイスカウトが選挙を手伝っている



昼時には、投票所内でスタッフが昼食を
とっていた



タイ貢献党候補者の事務所には、タクシンの写真が掛けられていた